

こころの救急箱 通信 第2号

発行：特定非営利活動法人 こころの救急箱 2012年2月

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮 1-16-17-708 号

事務局：電話・FAX：06-6942-9092

e-メール：cocorono9090baco@kpa.biglobe.ne.jp

URL：<http://www1a.biglobe.ne.jp/cocorono9090baco/index.html>

相談電話：06-6942-9090(月曜日夜8時～火曜日朝3時)



2012年に入り、日本列島は雪害に見舞われ、大震災にあわれた方々を、苦しめることになり、仮設住宅での寒さは、如何ばかりかと思う昨今です、こころの救急箱の活動を始めて、この四月には、二周年を迎え、記念講演会を開催いたします

身近な人々の、傾聴の輪が広がり、ボランティア活動に関心を持っていただけますように願っています。
(こころの救急箱 代表 北浦萬里子)

現代の“鬱”

理事 精神科医 上西園広

今回は最近のうつ病についての話をさせていただきます。

最近よくみられるうつ病は発症頻度が高く、その発症原因において、従来のものと大きく変化しています。今までのうつ病は内因性（おもに自己の脆弱性からくるもの）のものが大部分を占めていたのが、社会構造の変化、すなわち終身雇用の崩壊、メディア（新聞、テレビ等）の不正確な情報とあおり、IT 産業の改変（進化？）、同時に世界のグローバル化、日本における産業構造の空洞化、すなわち現業雇用層の雇用機会の減少、若者の農林水産業からの撤退、少子高齢化、年金問題、何も実益のない高学歴社会、格差社会、加えて地震、原子力事故による社会不安、若者と中高令者の間の考え方のギャップ、等々、社会構造の変化と不安を列挙すればきりがありません。このような社会不安の中で我々はいかにして生きていけばよいのか、多くの人が、漠然と考えているのが実情です。この環境から、自然発生的に潜在的に不安を生じ、身近なところで小さなストレスを感じると、今まで発症していなかった人まで発病することになります。さて、このよううつ病の解決のいとぐちはあるのでしょうか。

(上西神経内科・内科クリニック。大阪市中央区森ノ宮中央 1-14-17 ICB 森ノ宮ビル 2F)